

単元名：「はんたいことばカルタ大会」をひらこう  
「はんたいのいみのことば」

男子 14 名 女子 13 名 計 27 名

指導者 夏 純子

単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年、「B書くこと」の指導事項「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。」「伝国（1）イ」の指導事項「(ウ) 言葉には、意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。」の内容を受けて設定したものである。学習指導要領の言語活動例「エ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書くこと。」を基に、対義語を使って、つながりのある文を書き「はんたいことばカルタ」を作ることと言語活動として位置付ける。

本単元では、使い方に応じて1つ1つの言葉の意味をしっかりと確認しながら、反対の意味を表す言葉の組み合わせという新たな観点で、語句相互の関係をとらえさせていく。対義語について理解し言葉を集めるだけでなく、対義語を使って一文の意味が明らかになるよう、カルタの読み札となる短文を作る活動を通して、言葉についての理解を深めることをねらいとしている。

- 本学級の児童は、第1学年の「まとめてよぶことば」の単元で、上位語・下位語という観点から言葉が分類できることを学習した。また、10月には「なかまになることばをあつめよう」の単元で、「方角」「季節」などに関連する言葉のまとまりを例示して、語と語との意味的なつながりについて学習している。「反対の意味の言葉」という概念については、日常生活の中で経験的に理解しているが、児童の語彙数には個人差が大きい。書くことについては、これまでに「はじめ」「なか」「おわり」の簡単な構成を考え、自分の経験や想像したことを伝える文章を書く学習をしてきている。しかし、つながりのある文章を意識して書ける児童がいる一方、思いつくまま書き進める児童もいるため、その差は大きい。

- **課題を発見・解決する力**

導入時には、絵カードを使って対義語に興味をもたせる工夫をし、自らも「反対言葉を集めてみたい」と思う意欲付けを行う。また、複数の対義語がある言葉を提示し、この場合には文章の中で対義語を使わないと相手にはその意味が伝わらない経験をさせ、単語で話すのではなく、文章で伝える必要性に気付かせる。また、ゴールに「はんたいことばカルタ大会」を設定することで、カルタを作るために、対義語を集めたり言葉の意味を考えて短文を作ったりすることに必然性をもたせ主体的に学習に取り組ませたい。

○**深く考える力**

本単元で育成したい思考力は、対義語について意味と使い方を関連付けて考える力である。

対義語には、複数の意味の対義語がある言葉と一つの意味しかない対義語がある。そのことに気付かせるため生活体験を想起させ、具体的な使用場面と関連付けて考えさせながら対義語カードを作らせたい。

また、複数の意味の対義語がある言葉と一つの意味しかない対義語に分類させることで、他にも複数の意味の対義語がある言葉はないか考えさせ、語彙を増やしていこうとする動機付けを行う。

○**自己を理解する力**

課題の設定において、単元のゴールを明確にするとともに、「はんたいことばカルタ大会」をするためにはどのような学習が必要か見通しをもたせる。そして、「はんたいことば」について学習することでどんな力を付けたらよいかを児童とともに考え、評価基準を明らかにする。振り返りの段階では、「はんたいことば」の意味や使い方を考えて「はんたいことばカルタ大会」に参加することができたかについて評価基準により自己評価を行う。「学びのモニタリング」の時間には、身の回りにおける対義語集めをすることができたか、対義語を使って短文づくりに取り組むことができたか、対義語の意味を考えながらカルタ大会に参加することができたかについて振り返らせたい。その振り返りを通して、語彙を増やすことのよさや楽しさに気づき、これからの学習に生かしていく意欲につながるようにしていく。

**単元の目標及び内容について**

- 対義語に興味をもち、身の回りから言葉を探そうとする。

【関心・意欲・態度】

- 対義語を使って、つながりのある文を書くことができる。

【書くこと ウ】

- 対義語にはどのようなものがあるか理解することができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ（ウ）】

**単元の評価規準**

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
【言語活動】 はんたいの意味のことばを集めて「はんたいことばカルタ」を作る。		
対義語に興味をもち、身の回りから言葉を探そうとしている。	対義語言葉の意味を考えて、短文を作っている。	対義語にはどのようなものがあるか理解している。

## 指導と評価の計画

全6時間

次	時	学習活動	評価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
一	1	<b>課題の設定(1)</b> ○はんたいの意味のことばに興味をもち、学習の見通しを立てる。 ・言葉には対義語があることを知り、ゴールの見通しをもって学習計画を立てる。 ・知っている対義語を挙げ、対義語について興味をもつ。	○			・対義語に興味を持ちカルタを作ることに進んで取り組もうとしている。	発言 行動観察
二	2	<b>情報の収集(1)</b> ○対義語を集める。 ・いろいろな対義語について知り、生活体験と関連付けてどんなときに使うかを考え、対義語カードを作る。			○	・対義語にはどのようなものがあるか理解している。	行動観察 ワークシート
三	3	<b>整理・分析(1)</b> ○いろいろな対義語について理解する。 ・作った対義語カードを交流し、同じ言葉でも意味の違うものがある対義語と一つの意味しかない対義語に分類し、同じ言葉でも使い方が違うことに気付く。 <b>【本時】</b>			○	・語の意味を理解して、同じ言葉でも意味の違うものがある対義語と一つの意味しかない対義語に分類している。	発言 行動観察
	4	<b>まとめ・創造・表現(2)</b> ○収集した対義語を使って、短文(カルタの読み札)を作る。 ・グループでどの対義語を使って短文を作るかを決める。 ・短文を読み札に書き、対義語を取り札く。		○		・対義語を使って、つながりのある文を書いている。	ワークシート
	5	○「はんたいことばカルタ大会」を開く。 ・読み手は作った短文を読み、取り手はその意味を考えて対義語の取り札を取る。			○	・短文に含まれている対義語の意味を考え、取り札を取っている。	行動観察

次	時	学習活動	評価				
			関	書	言	評価規準	評価方法
三	6	<b>振り返り（１）</b> <b>学びのモニタリング</b> ○自分の学びや学び方を振り返る。 ・単元の初めに立てた「学びのモニタリング」の視点で、身の回りにある対義語集めやカルタ作りなど、カルタ大会への取組を基に、自分の学びを振り返る。	○			・自らの学びや学び方を振り返り、学習したことをこれからの学習に生かそうとしている。	発言 行動観察 ワークシート

### 本時の学習

#### （１）本時の目標

- 対義語では、同じ言葉でも使い方によって意味が変わることに気付くことができる。

#### （２）本時の評価規準

- 複数の意味がある対義語と一つの意味しかない対義語に分類し同じ言葉でも使い方が違うことに気付いている。

【言語についての知識・理解・技能】

#### （３）本時の学習展開（３時間目／全６時間）

学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫	◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力
1 本時の課題を確認する。  めあて _____ 「はんたいことば」をグループ分けして、ひみつを見つけよう。	◇集めた反対言葉を交流しながら、仲間分けするという、学習の見通しをもたせる。	
<b>本時のゴールの見通し</b> A：複数の対義語があるものと一つしかないものにグループ分けし、具体的に使い方を考えながら言葉の意味を考えている。 B：複数の対義語があるものと一つしかないものにグループ分けし、言葉の意味を考えている。		
2 班で交流する。 ○どんな反対言葉カードを集めたか、班で出し合いましたよ。 ・「高い⇔低い」を見つけたよ。 ・「大きい⇔小さい」を見つけたよ。 ・「高い⇔安い」を見つけたよ。 ・高いの反対言葉は二つあるね。	◇対義語カードの交流の仕方を確認する。 ◇班の中で同じものが出てきた場合には、カードを重ねることを確認する。	

<p>学習活動 ○主な発問 ・予想される児童の反応 □思考の場の工夫</p>	<p>◇指導上の留意事項 ★めざす児童の姿 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て</p>	<p>評価規準〔観点〕 (評価方法) ◎本時で付けたい力 ☆育成したい資質・能力</p>
<p>3 班でグループ分けをしてひみつを見付ける。 ○集めた反対言葉カードを2つのグループに分けてひみつを見付けましょう。 ・動きがあるグループとないグループに分けられるね。 ・こっちのグループは何度も出てくる言葉を集めたよ。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>□思考の場の工夫 <b>分類する</b> 複数の対義語があるものと一つの意味しかない対義語に分類する。</p> </div> <p>4 全体で交流する。 ○「はんたいことば」をどのようにグループ分けしましたか。 ・反対言葉が一つしかないものといくつもあるものにグループ分けしました。 ・あついにはいくつもあります。 ⇄薄い ⇄冷たい ⇄寒い ・一つしかないものは、「明るい⇄暗い」「広い⇄狭い」「新しい⇄古い」です。</p> <p>5 対義語が二つ以上あるものについて詳しく考える。 ○カルタ大会をするためにはどんな工夫が必要ですか。 ・薄い・冷たい・寒い ・どれが正しいのか分かりません。 ○どの反対言葉が正しいか分かる方法がありますか。 ・文章に書くと分かる。</p> <p>6 本時の学習をまとめる。</p>	<p>◇グループ分けした視点を明確にするよう促す。  ◆友達の発言を聞いて、視点を明確にさせる。</p> <p>◇グループ分けした視点を明確にしながら発表させる。  ◇一つしかないものと複数あるものにグループ分けできることに気付かせる。  ◆友達の発言を聞いて、視点を明確にさせ、対義語が複数あるものを見つけるように促す。</p> <p>◇例題を出して対義語が複数あるものは、単語だけではどの対義語を選べばよいか分からないことに気付かせる。</p> <p>◇正しく対義語を伝えるためには、文章にすると良いことに気付かせる。</p>	<p>☆対義語の意味と使い方を関連付けて考えている。</p> <p>◎対義語が一つしかないものと、複数あるものについて理解している。〔言語についての知識・理解〕(行動観察・発言)</p>
<p>★めざす児童の姿 (反対言葉カードを二つのグループに分類し、複数の対義語がある場合には言葉だけでは意味が伝わらないことに気付いていけばよい。)</p> <p>反対言葉が一つしかないものと反対言葉がいくつもあるものがあつた。反対言葉がいくつもあるものは、文章にすると使い方が良く分かる。</p>		

(4) 板書計画

「はんたいことばカルタ大会」をひらこう  
めあて

「はんたいことば」をグループ分けして、ひみつを見  
つけよう。

- ◎ いみを考えながらグループ分け
- ⊗ 文を考えながらグループ分け

はんたいことばが一つしかないもの

右	左	前	後ろ	強い	弱い
とおい	近い	入る	出る	売る	出る
上がる	下がる	太い	細い	新しい	古い
明るい	くらい	広い	せまい	多い	少ない
まげる	のぼす	たて	よこ	あまい	からい

はんたいことばがいくつもあるもの

あつ	つめたい	あつ	さむい	あつ	うすい
高い	ひくい	高い	やすい		
うまい	へた	うまい	まずい		
きる	ぬぐ	きる	はる		
うすい	こい	あつ	うすい		
ぬぐ	きる	ぬぐ	はく	ぬぐ	かぶる

まとめ

はんたいことばが一つしかないものとはんたいことば  
がいくつもあるものがあつた。はんたいことばがいくつ  
もあるものは、文しようにするとつかい方がよく分かる。

〈参考〉 学びのモニタリング

学びのモニタリング

「はんたいことばカルタ大会」を ひらこう

二年 組 名前 ( )

① 「はんたいことばカード」を書くために、すすんではんたいことばを  
見つけることができた。

よくできた ○ できた △  
もう少し

② はんたいことばをつかって、読みふだに文を書くことができた。

よくできた ○ できた △  
もう少し

③ はんたいことばのいみを考えて、カルタ大会にさんかすることが  
できた。

よくできた ○ できた △  
もう少し

べんきようして気づいたこと・できるようになったこと・やってみたい  
ことなど

.....

.....